



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	ムカホパフォーマンス株式会社 静岡事業所 オフィス棟 新築工事	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.1	/5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.2	/5		ふつつ	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4	/5		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.4	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。			
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		得点	3.1
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①窓U=3.52(W/m<sup>2</sup>) 外壁U=1.73(W/m<sup>2</sup>)</p> <p>②トップライトの採用</p> <p>③ブラインドによりグレアを制御</p> <p>④品確法 等級1相当</p> <p>外壁 金属サイディング20年以上</p> <p>内装 クロス貼り 10年程度</p> <p>設備配管・ダクト 20年以上</p> <p>主要設備機器 15年程度</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	外皮性能	
	Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	屋光利用設備	
	3.2 3.2.1 ③	屋光制御	
	Q-2 2 2.2 2.2.1 ④	躯体材料の耐用年数	
	2.2.2 ④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
2.2.3 ④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
2.2.4 ④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
2.2.5 ④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
2.2.6 ④	主要設備機器の更新必要間隔		
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤敷地内外周廻りの既存緑地+新設ランドスケープにより外構緑地を確保。</p> <p>⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p>	Q-3 1	⑤	生物環境の保全と創出
3 3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上	
<p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦BPI<sub>m</sub>=0.83</p> <p>⑧トップライトによる自然エネルギーの利用。</p> <p>⑨BEL<sub>m</sub>=0.85 LED照明の採用。省エネ機器の導入。</p> <p>⑩運用管理体制を組織化している。</p>	LR-1 1	⑦	建物外皮の熱負荷抑制
2	⑧	自然エネルギー利用	
3	⑨	設備システムの高効率化	
4 4.1	⑩	モニタリング	
4.2	⑩	運用管理体制	
<p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪節水型便所(TOTOピュアレスト)を採用。</p> <p>雨水利用設備の導入による雨水の有効利用。</p> <p>⑫躯体部分における鉄骨・鉄筋に電炉材を採用予定。</p> <p>外構にて再生クラッシュランを採用予定。</p> <p>S適につき、解体時に躯体と仕上げ材の分別が容易。</p> <p>⑬ガス消火設備の採用無し。</p> <p>ODP=0の冷媒を使用。</p>	LR-2 1 1.1	⑪	節水
1.2 1.2.1 ⑪	⑪	雨水利用システム導入の有無	
1.2.2 ⑪	⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
2 2.1 2.1.1 ⑫	⑫	材料使用量の削減	
2.1.2 ⑫	⑫	既存建築躯体等の継続使用	
2.1.3 ⑫	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
2.1.4 ⑫	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
2.1.5 ⑫	⑫	持続可能な森林から産出された木材	
2.1.6 ⑫	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
3 3.1	⑬	有害物質を含まない材料の使用	
3.2 3.2.1 ⑬	⑬	消火剤	
3.2.2 ⑬	⑬	断熱材	
3.2.3 ⑬	⑬	冷媒	
<p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑭既存緑地+新設ランドスケープにより外構緑地を確保。</p>	LR-3 1	⑭	地球温暖化への配慮
2 2.2	⑮	温熱環境悪化の改善	
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点	3.2
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑯建築基準法の1.2倍</p> <p>設備機器は耐震クラスA以上で設置予定</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	耐震性	
	2.1.2 ⑯	免震・制振性能	
2.4 2.4.1 ⑰	⑰	空調・換気設備	
2.4.2 ⑰	⑰	給排水・衛生設備	
2.4.3 ⑰	⑰	電気設備	
2.4.4 ⑰	⑰	機械・配管支持方法	
2.4.5 ⑰	⑰	通信・情報設備	
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		得点	3.4
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑱バリアフリー法誘導基準の半分以上を満たしている。</p> <p>⑲1F:5m、2F:3.8mと階高にゆとりがある。壁長さ比率=0.09と間取り変更には柔軟に対応できる。</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
	3 3.1 3.1.1 ⑲	⑲	階高のゆとり
3.1.2 ⑲	⑲	空間の形状・自由さ	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>㉑外灯や防犯カメラによる安全性・防犯性を高めた</p>	Q-3 3 3.1	㉑	地域性への配慮・快適性の向上
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点	2.4
<p>■室外環境(敷地内)対策 (②生物環境の保全と創出/③まちなみ・景観への配慮/④敷地内温熱環境の向上)</p> <p>②敷地内外周廻りの既存緑地+新設ランドスケープにより外構緑地を確保。</p> <p>③建物形状・外装の配色は工業地域内で周辺の環境に調和するように配慮した。</p> <p>④緑地の緑や水面が連続するような外構植栽計画を行った。</p>	Q-3 1	②	生物環境の保全と創出
	2	③	まちなみ景観への配慮
3 3.2	④	敷地内温熱環境の向上	
<p>■敷地外環境対策 (⑤温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑤既存緑地・新設緑地・水面の配置により地表面対策面積率を確保。</p>	LR-3 2 2.2	⑤	温熱環境悪化の改善

# CASBEE® - 建築(新築)

# 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	メルカパフォーマンスマテリアルズ株式会社 静岡	階数	地上2F
建設地	静岡県掛川市千浜字系線	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条指定区域	平均居住人員	350 人
地域区分	6地域	年間使用時間	176 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2020年1月8日
敷地面積	(仮想境界)13,158.73 m <sup>2</sup>	作成者	松本浩敬
建築面積	3,455 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	5,991 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> CASBEE静岡2016年版による評価結果である。 静岡県掛川市の工業地域に新設する事務所である。建物へ入るとトップライトのある明るい吹抜のインフラ空間が広がる。建物用途は事務所となるが、執務としての機能を持ちつつ、従業員、来訪者が心地よく利用できる環境を整えた。共用部も十分なスペースを確保している。階高にゆとりがあり、設備の更新や、将来の間仕切り変更を含むり		<b>その他</b> 特になし
<b>Q1 室内環境</b> トップライトや、規則性のある開口部の配置により、居室内の照度や換気空調によるオフィス内環境を向上させている。	<b>Q2 サービス性能</b> 内部空間はデザインコンセプトをたてて、機能性とデザイン性を兼ね備えた空間とし、居室の天井高さや空間構成に余裕を持たせている。また通信機器の充実や、設備機器の更新についても、長期の計画を見据え柔軟に対応	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 前面道路沿いに緑地を配置している為、公共空間からはほとんど見えないが、建物形状・外装の配色は工業地域内で周辺の環境に調和するように配慮している。建物裏となる面には外灯を設置、ランドスケープ内には通路と
<b>LR1 エネルギー</b> 省エネ法の届出に則した外皮・設備内容としている。省エネ効率の高い設備を採用するよう配慮した。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 建屋周辺のアスファルト舗装には再生材を積極的に採用している。空調設備はODP=0の冷媒を採用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 燃焼機器の使用が無い為、大気汚染対策に配慮している。屋外照明の抑制や、屋外広告物照明が無いことにより、周辺環境へ配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される